



関係者評価結果出る

教育環境のさらなる充実を目指して

暦の上では春ですが、まだまだ寒い日が続きます。校庭の桜の木では、つぼみが徐々に膨らみ始め、春の訪れを待ちわびているようです。

2月13日(土)の午後、学校運営委員会と学校関係者評価委員会の合同委員会が開催されました。この日は、学校関係者評価委員会より、昨年11月に実施したアンケート結果の報告と、次年度に向けた提言書が提出されました(下記別枠参照)。提言書に基づ

よつがの学び舎 世田谷区立京西小学校 学校運営委員会だより



平成 27 年度 第 10 号
よつがの学び舎
世田谷区立京西小学校
学校運営委員会
委員長 真鍋和裕

き、来年度の学校経営方針を定め、教育環境のさらなる充実につなげていきます。

3学期も残すところ1か月。子どもたちも、卒業や進級に向けて、最後のまともに全力で取り組んでいきます。

先生は働きますか？

2月の学校運営委員会では、教職員の長時間労働が話題になりました。OECD(経済協力開発機構)加盟国の中で、日本の教師の労働時間が突出して長いそうです。特に顕著なのが、副校長などの管理職の長時間の課外活動時間だそうです。諸外国に比べると、日本の教師は授業以外の業務時間が長く、負担が大きいことが伺えます。

と、先生は自分としての人生を大切に存在。先生が病んでい

学校関係者評価

評価結果の考察と提言

2月13日(土)の合同委員会では、学校関係者評価委員会より、関係者評価アンケートの結果に対する考察と提言書が示されました。アンケートの回収率は9割を超えており、保護者や地域の方の学校運営に対する関心の高さが伺えました。

本年度の京西小学校の重点目標は「挨拶の充実」「体力向上の推進」「自尊感情の向上」でした。学び舎3校合同の挨拶運動や、朝マラソンによる体力向上など、重点目標に対する積極的な取り組みは、高く評価されました。

一方、学校や学び舎に関する情報発信など、学年によって評価にばらつきがあり、必ずしも高い評価ではない項目もありました。これらの結果を踏まえながら、来年度の学校経営方針の策定を進めます。



私たちも敏感に反応します。京西小学校は地域運営学校です。学校にすべてを押し付けるのではなく、我々保護者や地域住民も、先生方を手助けしながら、一緒に子どもたちを育てたい学校にしたいものです。

学校運営委員長 真鍋和裕

今年は18歳選挙権のスタートの年です。その準備は小学生から少しずつ始めておくことも必要でしょう。もちろん学校でも勉強する部分もあるでしょうが、家庭でも政治の話というより、私たちの暮らしという話題で話をしていくことが必要だと思います。

それに合わせて社会を見つめる力も養う。この力は私たち大人もさらに磨いていかなくてはなりません。

インターネット上の表面的な話題が取り上げられやすい今の世の中ですが、社会を見る目はネット上だけの情報ではなく、新聞など入念に調べられた情報から私たちの頭の中に取り込み、咀嚼し、考えていきたいと思っています。

避難訓練実施

いつでも備えを!



2月9日に避難訓練が行われました。この日は事前の予告なしに、抜き打ちで訓練を実施しました。子どもたちは慌てることなく落ち着いて行動し、真剣に訓練に取り組んでいました。

間もなく東日本大震災から5年が経過します。災害はいつやってくるかわかりません。東日本大震災の時は、低学年の下课時間と重なり、児童の安全確認に手間取りました。どんな時でも落ち着いて行動できるように、日頃からの心がけが大切です。

ようがの学び舎 用賀中学校



ガリレオコンテスト

1月30日(土)、二子玉川ライズにおいて、世田谷区内の中学生による自由研究コンテストの発表会がありました。835点の応募の中から選ばれた9点の研究発表が行われ、用賀中学校の生徒も「音と波」に関する研究を発表し、表彰されました。



一年生 職業講話



進路指導は、一年生を対象に、職業講話を行いました。講話は、職業について、働く人の話を聞く機会です。講話を通して、職業について、働く人の話を聞く機会です。講話を通して、職業について、働く人の話を聞く機会です。

の進路指導は、一年生を対象に、職業講話を行いました。講話は、職業について、働く人の話を聞く機会です。講話を通して、職業について、働く人の話を聞く機会です。

進化する ICT 教育環境



子どもたちが授業で使うパソコンが、2学期から最新のタブレット型端末に置き換わりました。これまで、据え置き型のデスクトップパソコンに代わり、持ち運びが自由なタブ



レット型になり、活用の方が広がっています。各教室には無線LAN環境が整備され、インターネットに接続して最新情報を得るなど、授業でも大活躍です。生まれた時からデジタル機器に囲まれて育ってきた子どもたち。説明書など読まなくても、どんどん使い方を覚えていきます。一方、最新型の端末は、各教員にも一台ずつ配布されました。授業や事務作業に大いに活用する先生もいる一方で、慣れないパソコンに四苦八苦ししているアナログ世代もちらほら。ただ、IT機器も所詮は道具の一つ。道具に振り回されることなく、先生一人一人の持ち味を生かした中身の濃い授業ができれば、子どもにとってはそれが一番だと思います。



京西文庫 読書好きの子どもたち



京西文庫プロジェクトでは、毎月、保護者のご協力のもと、子どもたちに読み聞かせをしています。低学年から高学年まで、どの子どもたちも熱心に耳を傾けています。印刷された活字を目で見る読書も重要ですが、耳で聞く読書も効果的だと言われています。物語に没頭して登場人物になりきり、心の豊かさや他人を思いやる気持ちを育む効果があるそうです。これからも、子どもたちのために継続したい活動の一つです。



また、京西文庫の係の方たちが、毎月、図書室の様態替えをしてくれます。季節に合わせた華やかな装飾が図書室を彩り、子どもたちが自然と集まってくる。柔らかな陽ざしの差し込む明るい図書室で、思い思いに読書に耽る子供たちは、とても幸せそうです。



区配するブックスペースも協力をいただき、世田谷区立図書館の解放プロジェクトの方たちと活動も充実するよう、活動を継続します。

今月の運営委員より

運営委員
古市実裕



我々の世代では、英語の授業は中学校に上がってから、というのが常識でしたが、今では小学校低学年から少しずつ英語に触れる機会があり、近々正式な教科となる計画もあるようです。2020年には東京でオリンピックが開催され、多くの外国人が訪れます。企業の国際化も進んでおり、英語を使う機会はますます増えるでしょう。小さい時から英語に慣れ親しむのも悪くないかもしれません。一方で、日本語の大切さも忘れてはいけないと思います。基本的に人間の思考回路は母国語で構成されており、表現力豊かな日本語で高度な知識を構築する効果は計り知れません。たとえ流暢に英語が話せたとしても、知性を伴わない表面的なコミュニケーションだけでは、真の人間関係は築けません。国際化・グローバル化と言えど響きはいいですが、それを理由に自国の文化や言葉を軽視するのは望ましい姿ではないと思います。外国語教育の低年齢化には賛否両論あり、なかなか難しい問題です。子どもたちが知性豊かな人間に成長するために何が必要なのか、我々大人が真剣に考えなくてはなりません。



このコーナーでは、11名の運営委員が毎月交代でコメントを掲載します。

あともがき
間もなく卒業式。春は別れの季節でもありません。友人たちと過ごした6年間を振り返りながら、残り僅かな小学校生活を充実して過ごしてほしいと思います。
(広報担当 白根・青木・古市)